



成果指標				
成果指標	そば乾燥調整施設を利用した刈取り作業面積			
指標設定の考え方	そば収穫作業の委託面積とする。			
区分年度	25年度	26年度	27年度	目標30年度
目標	600a	600a	600a	0
実績	586	650	650	0

自己評価				
自己評価 (担当責任者)	妥当性	目的の妥当性	3	C
		市民ニーズへの対応	3	
		市の関与の妥当性	2	
	有効性	事業の効果	3	C
		成果向上の可能性	2	
		施策への貢献度	3	
	効率性	手段の最適性	3	C
		コスト効率	3	
		受益者負担の適正	3	
課題認識	平成26年度より、㈱プロシーズが指定管理を行うこととなったが、今後も経費の削減と作付面積の拡大に努める。			

一次評価				
一次評価 (所属長)	妥当性	目的の妥当性	3	C
		市民ニーズへの対応	3	
		市の関与の妥当性	3	
	有効性	事業の効果	3	C
		成果向上の可能性	3	
		施策への貢献度	3	
	効率性	手段の最適性	3	C
		コスト効率	3	
		受益者負担の適正	3	
課題認識	なかやまそば乾燥調整施設については、今年度から「㈱プロシーズ」が指定管理することとなり、より一層維持管理経費の節減に努める必要がある。併せて、そば作付け面積の拡大に向けて、関係機関と連携し推進する必要がある。			

二次評価	
二次評価 (所属部長)	一次評価結果のとおり事業継続と判断するが、以下の課題を新たに追加する。
意見、課題	淡水魚(ペヘレイ)のふ化は成功しているものの、成長させるのが難しい。また販売ルートの確立もできておらず商品化にいたっていない。併せて施設の老朽化も著しく存続は厳しい状況下であり、事業廃止を視野に入れ検討する必要がある。

行政評価委員会の答申

外部評価  
(行政評価委員会)

経営者会議の最終判断

事業の方向性

下記の点を見直しの上、継続する。

意見、課題

適化法の期限を視野に入れながら、当面継続すること。